

1. 調査報告概要表

作成日 2010年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1072500091
法人名	NPO法人 沙羅林
事業所名	グループホーム 沙羅林
所在地	群馬県松井田市下増田966-5 (電話) 027-393-3170

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年3月 11日

【情報提供票より】(21年12月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 専任	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建て
------	------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日800円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜井内科医院、碓氷病院、吉井歯科診療所、松井田病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九十九神社の鳥居がホームの目の前にあり、参道から神社までが散歩のコースとなっているので日常生活の中で参拝が出来る場所に立地している。既存の建物を改築して作られているので居室は個性的である。利用者の居室には身体状況や好みに合った馴染みの物が持ち込まれており、その人に応じた生活が営まれていることが伺える。重度になっても清潔な身体を保持するよう、いつでも入浴が出来る体制が出来ている。入浴が出来ない人に対しては代替(足浴、シャワー)支援がある。自由な生活が提供され家族の要望に対してすぐに対応している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとしての理念は検討中であるがまだ作成されていない。評価の意義の理解と活用では職員全員にコピーを配り記入してもらい改善されている。プライバシーの確保と徹底では職員会議で取り上げ排泄時声の掛けなど改善している。又カーテンを設置し中が見えないように改善した。食事を楽しむことのできる支援では話し合いを持ち検討したが現段階では一緒に食べていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全員で取り組み事務職員、管理者が取りまとめ記載している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度定期的に開催されている。家族会会長、区長、民生委員、市職員、管理者が参加している。現状報告や行事報告、外部評価の結果など話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族より新聞を取って欲しいとの要望がありすぐに対応、新聞を取るようになった。重度化に対しては指針を作り家族の意向に沿える支援をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>過疎の地域のため家が点在し、その上高齢者が住んでいる家が多いので地域との連携や交流の機会は少ないが神社の祭りや地元小学校の運動会に出かけたり、ボランティアや中学生の体験学習等を受け入れて交流の機会を作っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年より新しい理念作りに取り組んでいるがまだ作り上げていない。以前の理念を使っている。	○	地域密着型としての理念を検討中だが出来るだけ早く見直しを行い、新しい理念を作り文章化してもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り書に理念が書かれていて朝礼の時に唱和している。理念は職員に共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣との距離があり付き合いは少ない。地域が高齢化、過疎化している。しかし地域とのかかわりが大切である事を理解している。中学校の実習の受け入れや小学校の運動会見学など行っている。また地域の九十九神社の祭りにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解している。前回の評価の結果は職員会議にかけ全員で検討をしている。職員からの意見を吸い上げ改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催をしている。区長、民生委員、家族会会長、市職員が参加している。管理者は施設状況報告など行っている。外部評価の結果について運営推進会議に報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者、事務員は解らない事などを市に電話して聞いたり、市に出掛けて行き情報の交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを家族に郵送している。日常生活の状況や健康状態、行事の報告など行っている。担当制がとられており担当者はケア面などを記入して家族に報告している。写真も送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から新聞を取ってもらいたいと要望が出され、管理者はすぐに対応して運営に結び付けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は離職は少ないほうが良いが、異動はあっても良いと考えている。新入職員には1週間くらい担当職員が付き日勤から覚えてもらう。1ヶ月をめどに管理者が見極め夜勤を覚えてもらう。夜勤も経験に応じた回数を担当者に付ける。利用者へのダメージを少なくする工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修が大切と思っている。研修は順番だったり、内容によっては選入している。認知症研修、身体拘束研修、実践者研修、新任研修など参加している。法人での研修も年3回あり、職員は参加している。研修内容は職員会議で報告し、報告書も書いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。管理者は職員に研修参加を声掛けしている。グループホーム大会、認知症研修などに参加している。他グループホームとの交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には施設を家族と本人に見学してもらい、施設でお茶など飲みながら雰囲気を味わってもらおう。施設より出向いて在宅での生活を見させてもらう場合もある。施設の状況など説明して納得して入居できる工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し野菜作り、花の育て方を教えてもらっている。また裁縫、料理、おやつづくりなどその人が過去に得た技術など毎日の生活に活かしながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者から会話を通して意向の確認をしている。家族からは面会時などにさりげなく聞いたり、確認をしている。最近では楽しみを大切にレクリエーションの充実を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を反映した大まかなプランを担当者が組みカンファレンスで話し合う。ケアマネジャーが介護計画を組み立て全員で共有している。家族には面会時確認の印をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。また随時での見直しを行い現状に即した計画を立てている。毎月のモニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、利用者の希望に対応している。通院支援、買い物支援、生家を訪ねるなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に主治医の説明を行っている。主治医は家族の希望で選択できる。協力病院より月に2回の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの経験があり家族の意向の確認を行っている。重度化に対しての指針が出来ている。職員は管理者より説明を受け指針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄などは声を掛ける前にパターンを把握し誘導や声かけを行っている。トイレにはカーテンを付け見えないよう工夫を行った。書類は事務所に保管されている。報告時利用者の名前はイニシャルで行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の生活の質の向上を年間計画で考え工夫している。利用者は縫い物など自由に行い一人ひとりの生活のペースにあった支援がされている。「その人らしい生活を支援するためにどう対応したらよいか」をテーマにグループホーム大会での発表を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から仕入れて食事はホームで作っている。利用者はテーブル拭き、下膳など一緒に行っている。希望のメニューが取り入れられ外食などにも出掛けている。3月には寿司パーティーが行われ、目の前ですし屋さんの握った寿司を食べている。イチゴ狩り、りんご狩りなどにも出掛け外での食事を楽しんでいる。職員は一緒に食べていない。	○	利用者の重度化により見守りの職員が必要であり、一緒に食事をしていない。また休憩時間の関係もあり利用者と食べていない。食事を一緒に摂る事により共有の話題が出来、硬さ、味なども感じられる。家族として食事を共にする支援をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	月曜日から土曜日まで入浴の出来る体制がある。また緊急のシャワーなど随時の対応がされている。入浴拒否がある人などは次の日に振り替えたり、足浴などにも対応している。入浴が楽しめる様工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として野菜作り、縫い物、洗濯干し、洗濯物たたみ、庭掃除などがある。楽しみごとはタペストリー作り、紙芝居、読み聞かせ、踊り、カルタ、書道など。気晴らしの支援として年2回の旅行、ドライブ、映画を見る、寿司屋さんの寿司を楽しむ支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	九十九神社への散歩や外食、ドライブ、旅行、野菜作り、外でのお茶など日常的に外出できる支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害を管理者は職員に話している。職員は鍵を掛けないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行われている。1回は消防署立会いで行い、1回は自主訓練で行っている。隣家とは距離があり地域の家は高齢者の世帯が多く、地域への協力要請はまだ行っていない、		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取記録がされている。食事は10割で記録され、水分は摂取量が表示されている。水分の目安は2000ccとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を改築してあり神棚など馴染みのものがあり違和感が無い。テレビ、ぬいぐるみ、観賞植物、写真など飾られている。明かりとりに工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は馴染みのものを持ち込むことが出来る。介護度の差がありポータブル、車椅子、仏壇、作品など本人が使いやすく又なじみのものが持ち込まれている。		